

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2      2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究 (B)      4. 研究期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号 2 3 3 3 0 1 8 3
6. 研究課題名 精神医療現場における多相的コミュニケーションの共創支援～開かれた関係構築に向けて

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 5 4 1 4 1	エノモト 榎本 ミカ 美香	メディア学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	オカモト 岡本 マサシ 雅史	清泉女子大学・文学部	講師
4 0 3 8 1 4 2 0	ヤマカワ 山川 ユリコ 百合子	茨城県立医療大学・保健医療学部	講師
4 0 5 8 0 8 8 2	マツシマ 松嶋 タケシ 健	京都大学・人文科学研究所	研究員
7 0 2 1 4 9 4 7	クシダ 串田 シュウヤ 秀也	大阪教育大学・教育学部	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の目的は、高次脳機能障害や精神障害などの障害名が与えられた人々(the Communication Challenged; 以下CC)と精神医療現場の人々(医師、看護師、作業療法士、家族など)が相互の〈やりとり〉を多様化することを通じて、参加者全員が共に障害や困難に向き合える開かれた関係性を再構築することにある。具体的には、以下の実践を可能にする多相的コミュニケーション介入の方法を検討する。

1. 多声化：様々な立場にある者(例：医師、看護師、研究者など)が参加し、それぞれの立場から柔軟な発言ができる
2. 多重化：CCが様々な役割(例：ホスト、講師、面接官など)で参加し、多重の役割遂行を通じて、他者との多様な〈かかわり〉ができる
3. 既存の〈やりとり〉における自他の振る舞いや参加者間の関係性をメタ的にモニターできる

平成23年度は、多相的コミュニケーションが行われていると考えられる以下の場面のデータを収録し、分析データの整備を行った。

- ・ リエゾンカンファレンス：アルペンリハビリテーション病院(富山県)、会田記念リハビリテーション病院(茨城県)で交互に開催されるケースカンファレンスであり、病院内の医師、看護師、理学療法士、作業療法士等異職種の人々と外部レビューアとして招かれる他病院の精神科医が1事例について検討する会(2会期分(計約2時間分))
- ・ デイケア面談：茨城県立医療大学のデイケアで行われた面談(2名計1時間分)
- ・ 幻想かるた作成・感想会：水海道厚生病院デイケアでの新たな試みとしてのかるた作り(1時間)
- ・ 外来診察(対照データ)：水海道厚生病院(茨城県)外来診察(53名計約5時間)

また、新たな実践として多施設間の職員が参加する「茨城ケア・コンソーシアム」を開設した。

10. キーワード

- (1)精神医療      (2)実践      (3)コミュニケーション      (4)会話  
 (5)対人関係      (6)      (7)      (8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。  
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ②  
 (理由) 研究初年度は、多相的コミュニケーション介入方略の立案に向けて、現状の比較的多相的コミュニケーションに近い実践場面を収集することを達成目標としており、様々な場面におけるデータを収集し、書き起こし等の整備を行うことができたため、おおむね順調に進展しているといえる。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

今後は、これまでに収集したデータにおける多相的コミュニケーション介入(Polymorphic Communication Intervention; 以下 PCI)の実践程度とそれを構成する多相化要因を抽出し、今後新たに展開すべき PCI 方略の立案を行う。

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

【雑誌論文】 計（26）件      うち査読付論文 計（12）件

著者名	論文標題			
榎本美香、伝康晴	話し手の視線の向け先は次話者になるか			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
社会言語科学	有	14	2011	97-109
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
石本祐一、榎本美香	発話末要素の有無の韻律的予測			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-B101	2011	5-10
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
榎本美香、野口広彰	Kinectセンサーを利用した調理場面の行為認識コンポーネントの提案－高次脳機能障害者支援のための環境制御技術の実装に向けて－			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-B101	2011	41-44
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題				
伝康晴、小磯花絵、丸山岳彦、前川喜久雄、高梨克也、榎本美香、増田将伸	発話の実時間性：コーパス言語学と相互行為言語学からの提言				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-B101	2011	51-54	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
Yuichi Ishimoto, Mika Enomoto, Hitoshi Iida	Projectability of Transition-Relevance Places Using Prosodic Features in Japanese Spontaneous Conversation				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
Proc. Interspeech2011	有	Proc. Interspeech 2011	2011	2061-2064	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
石本祐一、榎本美香	話者移行適格場となる発話末要素の到来を告げる韻律変化				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
日本音響学会2011年秋期研究発表会講演論文集	有	—	2011	363-364	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
榎本美香、岡本雅史	修復連鎖の終了手続きとしての合意形成フェーズ・コミュニケーション・チャレンジの多人数会話の観察から				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
2011年度日本認知科学会第28回大会 発表論文集	有	—	2011	568-575	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
石本祐一、榎本美香	発話完結可能点の予測に利用される発話末要素と韻律変化の実験的検証				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
日本音響学会2012年春季研究発表会講演論文集	有	—	2012	449-450	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
榎本美香、伝康晴	話し手の視線の向け先は次話者になるか				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
社会言語科学	有	14(1)	2011	91-109	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
1344-3909					

著者名	論文標題			
岡本雅史、榎本美香	修復の権限はいかにして移譲されるか？—多人数会話における第三者修復の事例を通じて—			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本語用論学会第13回大会発表論文集	無	6	2011	25-31
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
山川百合子、河合伸念	幻覚妄想かるたを使ったピアサポーター養成に向けた取り組み			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
均衡生活学	有	8	2011	1-6
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
串田秀也	追加的解決方法を求める訴え—精神科外来診察におけるデリケートな問題提示の一事例			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
大阪教育大学紀要 第II部門	無	60(1)	2011	1-21.
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	実社会で自然に生起する継続的なミーティング活動のフィールド調査の狙いと工夫			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会資料	無	SIG-SLUD-B101	2011	55-62
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
加納圭、水町衣里、元木環、高梨克也	科学者の“対話力”トレーニングプログラムの開発—伝える，聴く，分かち合う，ができる科学者へ—			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本科学教育学会年会論文集	無	35	2011	157-158
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也、平本毅	ミーティングの周皮的参加者が何かに気づくとき			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
電子情報通信学会技術報告	無	HCS2011-4 1	2011	77-82
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題				
平本毅、高梨克也	ミーティング場面における「新たな切り口」の導入：周回の参加者による貢献に着目して				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
社会言語科学会第28回大会発表論文集	無	—	2011	218-221	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
Yasuhiro Katagiri, Katsuya Takanashi, Masato Ishizaki, Mika Enomoto, Yasuharu Den and Yosuke Matsusaka	Concern Alignment in Consensus Building Conversations				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
SemDial 2011: Proceedings of the 15th Workshop on the Semantics and Pragmatics of Dialogue	有	—	2011	208-209	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
坊農真弓、角康之、高梨克也、岡田将吾、菊地浩平、東山英治	多人数・マルチモーダルインタラクション研究のためのプラットフォーム構築				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
情報処理学会研究報告	無	IPSJ SIG-HCI-145	2011	1-6	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
Yasuharu Den, Nao Yoshida, Katsuya Takanashi, Hanae Koiso	Annotation of Japanese response tokens and preliminary analysis on their distribution in three-party conversations.				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
Proceedings of the 14th Oriental COCODA (O-COCODA 2011)	有	—	2011	168-173	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
Katsuya Takanashi and Takeshi Hiramoto	Designing a Future Space in Real Spaces: Transforming the Heterogeneous Representations of a "Not Yet Existing" Object.				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
Proceedings of International Workshop on Multimodality in Multispace Interaction (MiMI)(Hosted by the Third JSAI International Symposia on AI (JSAI-isAI 2011))	有	—	2011	25-36	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題			
平本毅、高梨克也	<何か質問はありますか>という問いかけを通じたミーティングの説明場面の構造化			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
雑誌名：社会言語科学会第29回大会発表論文集	無	—	2012	180-183
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
岡田将吾、坊農真弓、角康之、高梨克也、新田克己	非言語パターンの自動抽出による状況説明会話における言い淀みシーンの分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
インタラクシオン2011論文集	有	—	2012	1007-1012
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
岩立卓真、高梨克也、河原達也	ポスター会話におけるパラ言語・非言語情報を用いた話者交替及び次話者の予測			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会資料	無	SIG-SLUD-B103	2012	61-67
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
片桐恭弘、石崎雅人、高梨克也、伝康晴、榎本美香、松坂要佐	保健指導対話を対象とした相互信頼感形成過程の分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会資料	無	SIG-SLUD-B103	2012	89-94
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也、平本毅	参加者による議事録を利用した継続的なミーティング活動記録の構造化			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会資料	無	SIG-SLUD-B103	2012	81-88
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	複数の焦点のある相互行為場面における活動の割り込みの分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
社会言語科学	有	14(1)	2011	48-60
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

【学会発表】計（31）件    うち招待講演 計（2）件

発表者名	発表標 題	
石本祐一、榎本美香	発話末要素の有無の韻律的予測	
学会等名	発表年月日	発表場所
言語・音声理解と対話処理研究会	2011年7月22日	九州工業大学(福岡県)

発表者名	発表標 題	
榎本美香、野口広彰	Kinectセンサーを利用した調理場面の行為認識コンポーネントの提案－高次脳機能障害者支援のための環境制御技術の実装に向けて－	
学会等名	発表年月日	発表場所
言語・音声理解と対話処理研究会	2011年7月23日	九州工業大学(福岡県)

発表者名	発表標 題	
伝康晴、小磯花絵、丸山岳彦、前川喜久雄、高梨克也、榎本美香、増田将伸	発話の実時間性：コーパス言語学と相互行為言語学からの提言	
学会等名	発表年月日	発表場所
言語・音声理解と対話処理研究会	2011年7月22日	九州工業大学(福岡県)

発表者名	発表標 題	
Yuichi Ishimoto, Mika Enomoto, Hitoshi Iida	Projectability of Transition-Relevance Places Using Prosodic Features in Japanese Spontaneous Conversation	
学会等名	発表年月日	発表場所
Interspeech2011	2011年8月29日	Florence, Italy

発表者名	発表標 題	
石本祐一、榎本美香	話者移行適格場となる発話末要素の到来を告げる韻律変化	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会秋期研究発表会	2011年9月22日	島根大学(島根県)

発表者名	発表標 題	
榎本美香、岡本雅史	修復連鎖の終了手続きとしての合意形成フェーズコミュニケーション・チャレンジドの多人数会話の観察から	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本認知科学会第28回大会	2011年9月24日	東京大学(東京都)

発表者名	発表標 題	
岡本雅史、榎本美香	共同行為としての会話における「潜在」と「不在」	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本語用論学会第14回大会	2011年12月4日	京都外国語大学(京都府)

発表者名	発表標 題	
石本祐一、榎本美香	発話完結可能点の予測に利用される発話末要素と韻律変化の実験的検証	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会春季研究発表会	2012年3月13日	神奈川大学(神奈川県)

発表者名	発表標 題	
桐生暁、桑原明栄子、山川百合子	コンピュータを利用した箱庭療法における玩具モデルに関する研究	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
芸術科学会NICOGRAPH International 2011&春季大会	2011年6月11日	神奈川工科大学(神奈川県)

発表者名	発表標 題	
山川百合子、小池希、栗原加代	高次脳機能障害の就労に関する心理的要因	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第37回日本保健医療社会学会大会	2011年5月22日	大阪大学(大阪府)

発表者名	発表標 題	
松岡恵子、小谷泉、山里道彦	外傷性脳損傷の物語談話におけるCorrect Information Unit (CIU) 分析の試み	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第35回日本高次脳機能障害学会	2011年11月11日	鹿児島市民文化ホール (鹿児島県)

発表者名	発表標 題	
松嶋健	アクトーからパフォーマーへーイタリアの地域精神保健と演劇人類学の出会いから	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
日本文化人類学会第45回研究大会	2011年6月12日	法政大学 市ヶ谷キャンパス (東京都)

発表者名	発表標 題	
Shuya Kushida	"Intelligibility and sensitivity of a treatment recommendation: examples from psychiatric consultations in Japan,"	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
3rd International Conference on Conversation Analysis and Clinical Encounters	13 July, 2011,	York University, UK

発表者名	発表標 題	
高梨克也	実社会で自然に生起する継続的なミーティング活動のフィールド調査の狙いと工夫	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第62回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会	2011年7月22日	九州工業大学(福岡県)

発表者名	発表標 題	
加納圭、水町衣里、元木環、高梨克也	科学者の“対話力”トレーニングプログラムの開発－伝える、聴く、分かち合う、ができる科学者へ－	
学会等名	発表年月日	発表場所
第35回日本科学教育学会年会	2011年8月23日	東京工業大学 すずかけ台キャンパス(東京都)

発表者名	発表標 題	
高梨克也、平本毅	ミーティングの周縁的参加者が何かに気づくとき	
学会等名	発表年月日	発表場所
電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会2011年8月研究会	2011年8月26日	京都大学(京都府)

発表者名	発表標 題	
平本毅、高梨克也	ミーティング場面における「新たな切り口」の導入：周縁的参加者による貢献に着目して	
学会等名	発表年月日	発表場所
社会言語科学会第28回研究大会	2011年9月17日	龍谷大学 深草キャンパス(京都府)

発表者名	発表標 題	
平本毅、高梨克也	ミーティング場面における「了解」の達成－<何か聞くことはあるか>と聞くこと－	
学会等名	発表年月日	発表場所
第84回日本社会学会大会	2011年9月17日	関西大学 千里山キャンパス(大阪府)

発表者名	発表標 題	
Yasuhiro Katagiri, Katsuya Takanashi, Masato Ishizaki, Mika Enomoto, Yasuharu Den and Yosuke Matsusaka	Concern Alignment in Consensus Building Conversations	
学会等名	発表年月日	発表場所
SemDial 2011	2011年9月21日	The University of Southern California, Los Angeles, California, USA

発表者名	発表標 題	
高梨克也	多人数インタラクション分析の背景と理論的枠組み	
学会等名	発表年月日	発表場所
京都大学学術情報メディアセンターセミナー「多人数インタラクションの分析と応用」	2011年9月27日	京都大学(京都府)

発表者名	発表標 題	
高梨克也	【招待講演】多職種グループでの継続的なミーティング活動を対象としたフィールド会話分析の試み	
学会等名	発表年月日	発表場所
第10回サイエンススタディーズ研究会	2011年9月29日	東京大学 駒場キャンパス(東京都)

発表者名	発表標 題	
坊農真弓、角康之、高梨克也、岡田将吾、菊地浩平、東山英治	多人数・マルチモーダルインタラクション研究のためのプラットフォーム構築	
学会等名	発表年月日	発表場所
第145回情報処理学会ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	2011年10月14日	お茶の水女子大学(東京都)

発表者名	発表標 題	
Yasuharu Den, Nao Yoshida, Katsuya Takahashi, Hanae Koiso	Annotation of Japanese response tokens and preliminary analysis on their distribution in three-party conversations.	
学会等名	発表年月日	発表場所
The 14 <sup>th</sup> Oriental COCODA	2011年10月26日	National Chiao Tung University, Hsinchu, Taiwan

発表者名	発表標 題	
Katsuya Takahashi, Takeshi Hiramoto	Designing a Future Space in Real Spaces: Transforming the Heterogeneous Representations of a "Not Yet Existing" Object.	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Workshop on Multimodality in Multi-space Interaction (MiMI)(Hosted by the Third JS AI International Symposia on AI (JSAI-isAI 2011))	2011年12月1日	サンポートホール高松 (香川県)

発表者名	発表標 題	
高梨克也	実社会で自然に生起する継続的なミーティング活動のフィールド調査	
学会等名	発表年月日	発表場所
「コミュニケーションの自然誌」研究会	2011年12月19日	京都大学(京都府)

発表者名	発表標 題	
高梨克也	【招待講演】「インタラクションの観察」の現状と課題ーインタラクションだけを観察できるかー	
学会等名	発表年月日	発表場所
第2回人工知能学会子どものコモンセンス知識研究会	2012年2月11日	お茶の水女子大学(東京都)

発表者名	発表標 題	
平本毅、高梨克也	<何か質問はありますか>という問いかけを通じたミーティングの説明場面の構造化	
学会等名	発表年月日	発表場所
社会言語科学会第29回研究大会	2012年3月10日	桜美林大学 町田キャンパス (東京都)

発表者名	発表標 題	
岡田将吾、坊農真弓、角康之、高梨克也、新田克己	非言語パターンの自動抽出による状況説明会話における言い淀みシーンの分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
インタラクション2011	2012年3月15日	日本科学未来館(東京都)

発表者名	発表標 題	
岩立卓真、高梨克也、河原達也	ポスター会話におけるパラ言語・非言語情報を用いた話者交替及び次話者の予測	
学会等名	発表年月日	発表場所
第64回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会	2012年3月26日	東京大学 本郷キャンパス (東京都)

発表者名	発表標 題	
片桐恭弘、石崎雅人、高梨克也、伝康晴、榎本美香、松坂要佐	保健指導対話を対象とした相互信頼感形成過程の分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
第64回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会	2012年3月26日	東京大学 本郷キャンパス (東京都)

発表者名	発表標題		
高梨克也、平本毅	参加者による議事録を利用した継続的なミーティング活動記録の構造化		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第64回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会	2012年3月26日	東京大学 本郷キャンパス (東京都)	

〔図書〕 計(0)件

著者名	出版社		
	書名	発行年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<https://sites.google.com/site/pciprjct/>